

課題認識

- ◆ 今後我が国では、単身世帯や単身高齢世帯の増加が見込まれる中で、孤独・孤立の問題の深刻化が懸念される。
- ◆ 孤独・孤立の予防の観点からは、多世代交流も含めたつながり・居場所づくりが重要であることを踏まえ、長期的視野に立ち、現役世代(若者・中高年層)を含め、単身高齢者等の孤独・孤立の問題について、施策を講じていく必要。

現状・課題の把握

- ◆ 単身世帯や単身高齢世帯の推移、社会的な影響等について
⇒研究者、学識経験者等からヒアリング
- ◆ 見守り・居場所づくり等に係る既存の施策や現場における活動について
⇒関係省庁、地域における取組の担い手、先進的な取組を行っている民間企業等からヒアリング



対策の検討

- ◆ チーム会合を毎月1回程度開催し、必要に応じ現場視察も実施。夏頃に議論の取りまとめ。
 - ◆ ヒアリング等を通じて把握した課題に対して、政府全体としてどのようなアプローチを取っていくべきかを検討。
 - ⇒①身寄りのない単身高齢者に対して各省が実施している各種施策のフォローアップなど。
 - ⇒②孤独・孤立の予防の観点から、つながりや居場所づくりの更なる推進。
- ※孤独・孤立対策の在り方に関する有識者会議等とも連携。